

## 大陸縦断

### 極兵団輜重連隊

千葉県 濱田 實

私の経歴・戦歴は次のとおりです。

大正十一年四月十二日生まれ

所屬部隊Ⅱ輜重兵第二十七部隊（極二九〇九部隊）

昭和十八年八月Ⅰ 満州国錦州省錦県付近の警備

昭和十九年三月Ⅰ 河南作戦（京漢線打通作戦）参加

五月Ⅰ 湘桂作戦参加

八月Ⅰ 東部衡陽掃討作戦参加

十一月Ⅰ 茶陵附近警備

昭和二十年一月Ⅰ 遂州・贛州地区攻略戦（飛行場）

三月Ⅰ 贛州附近警備並びに惠州附近集結

五月Ⅰ 三南作戦参加並びに贛州附近集結

八月 十七日、十四日付停戦詔書拜す

十二月 二日、安徽省蕪錫移駐 集結

昭和二十一年三月 上海―復員

私は軍隊は昭和十八年・十七年徴集ですから十八年一月十日に東部第十七部隊に入隊しました。東部第十七部隊は近衛だと言いで、その時分は肩をいからせていましたが、それも十五日間の検査でいよいよお前は中国へ行くんだと、私は北支派遣軍だということをそこではっきり聞いたのです。だから十五日間だけが近衛です。それからというものは、あの中国の戦線かと毎日思っていました。

それで身体検査が終わって弱い人は隊に残されて、後は全部宇品港から朝鮮半島を経由して満州の秦皇島へ着きました。秦皇島で一期の検閲が終わって、幸いにも第一選抜上等兵になりました。そこでは満期兵を二組送りました。

八月三日ころ満州の錦県に集結、補充兵の教育をされました。こんど我々も満期の番だと戦友と話し合っているうちに昭和十九年三月十五日「極兵団は機動演習のため〇〇へ向かって前進す」との命令で、大陸縦断八〇〇〇キロの歩みについたのです。そしていよいよ

本当の戦場へ向かったわけです。列車で途中まで行き、後は徒歩です。河南作戦をして京漢線打通作戦に参加しました。

私は輜重兵で上級者だったので馬を御しており、補充兵は可哀相ではあるが徒歩で輜重車を牽いて行きます。そのうち雨に悩まされ、天候と戦争したようなもので、雨の中一週間もの行軍でした。大分馬も死ぬ、兵隊も死ぬ、百何人も死者が出ました。鉄砲でなく、天候によってこれだけの死者が出ました。

黄河を渡ってから漢口・武昌で全部の車両を返納して、ここから駄馬になりました。それからが本当の戦争という気分が出ました。ここからは徒歩ですし、少しの敵は歩兵の援助なく自ら突破して行かねばならないのです。だから徒歩小隊というものを作って、後は駄馬隊です。そしてほとんど山の中です。この河南作戦から湘桂作戦へ行く途中でたまたま敵襲があり、私は体がいいので「濱田上等兵、今日は軽機の弾薬手になってくれ」と言われました。その時不意に敵兵が現れ撃って来ました。私はこれが最期かなと思ひ、お袋

の写真を鉄帽の中へ入れ、嫌だったけれども命令なので行きました。

弾薬手は軽機のそばに寄っているのですが、軽機は敵から狙われるので、ダダーと撃つと、すぐ移動しなければなりません。そのうちにやられたと思いましたが。確かに鉄砲弾を食らいました。二発、恐らく重機の弾かな、軽機の弾かなと考えているうちに間が長く、敵からの距離が遠かったもので、ふと前に遮蔽したところへドスンとききました。「濱田、運がいいな」と。そしてヤレヤレと思つたのも束の間、迫撃弾が飛んできました。逃げれば逃げられるのになぜかウロウロとして、そしてそのうちに落下してくる。これもやられたなと思ひました。それは三尺近くに落ちた不発弾でした。本当に爆弾のような形で土に突き立っていました。

これが最初の軍隊での対戦で、これで度胸がつきまして、戦友からも「弾が当たって死なない。爆弾で死なないとは濱田、お前だけだ」とこんな冗談が出ました。本当に助かりました。これは敵との距離が遠かつ

たからなのですが、その反対に近い距離での対戦もありました。

なんと嘘のような話です。これは一五メートルの近距離の対戦です。昼飯を食っていたら敵が歩哨線突破してラッパを吹いて突入してきました。飯を食っていたからどうしようもありません。ドヤドヤして、それからすぐヤミクモに撃ち合いとなったのです。一五メートルしかないのになぜ撃ち合うか、突っ込んだ方がいいじゃないかと思いますが誰も突っ込みません。入ってくる奴も入ってくる奴で十四、五人です。とうとう掴まえることもできずに逃げられてしまいました。

これはまるで嘘のような話で、その後も本当に撃ち合いをやったのはそれだけで、後は行軍ばかりでした。

行軍しながらも死んでゆく人がいます。馬の上で死んでゆく人、可哀相でならないと思いました。そして糧秣、被服などの受領があつて湖南省の衡陽まで行きました。その帰りに今度は飛行機にやられました。

それは衡陽で受領した帰りに鼻歌交じりで行きましたら、飛行機の音がします。「あれ、飛行機だ」と。髪をなびかせて女性飛行士が乗った四、五機です。その時、私は馬から下りて、馬は可哀相ですが周りは田圃ですから何も遮蔽するものがありません。見たら離れたところに一軒家があります。歩兵も馬部隊の人も皆、馬を離してこの一軒家に駆け込むのです。

ここは農家で、皆がモミ殻の入ったカゴを頭に乘せて、機銃ではたまりませんが、それでも気持ちが違うのだなと思いました。その時、私は積んであつた装具を着けたままの馬を離していました。飛行機の爆撃が終わり落ち着いて、私の馬が帰ってきたのを見ると私の装具はひとつもありません。私は銃一挺しか持っていないことになったのです。その馬は機銃でやられていたのでヨタヨタでした。私らが戻った馬を民家へ連れていって置いてきたのですが、出発するころには中国人が料理していたようです。「オイ、濱田、お前の馬をやっているぞ」「可哀相だが仕方がない」。

そうしてその場を出た時に今度は戦友が一人やられ

たのです。酷いものです、腰に貫通で拳ぐらいの穴が開きました。しかし今も元気で生きています。長谷川という人で、戦友会に来ますと裸になりそれを見せません。私が「長谷川、お前を一晚中担架に担いでいたぞ」と言うと、「そうか」と。本当に飛行機の機関砲でやられたのです。

アメリカの女性飛行士です。アメリカは、中国は女でもいいと、ほとんど女子で、ほんの低空で飛んで来ました。

それからというものは、ほとんど昼は歩きません、夜行軍となりました。ある民家へ入りますと、そこで初めて日本の「白地に赤く」の歌を子供が歌っていました。ここには日本人の医者が出たそうです。

ここから反転して三南作戦に入りました。

昭和十九年十一月十九日から掃討作戦に参加しました。米軍の飛行場を潰せというのが主な目的でした。

南昌の手前まで来た昭和二十年八月十七日に終戦を聞いたのです。そしてヤスリで補充兵の持っている古

い三八式歩兵銃も全部の銃の菊のご紋章を削り中国軍に渡したのです。

例えば大陸縦断八〇〇キロ、満州国の錦県から北支から中支への河南作戦、続いて揚子江南の湖南省で掃討作戦、さらには南下し広東省の遂州・贛州の在支米軍航空基地占領、南支海岸、三南作戦、そして対米戦のため北上中江西省で終戦でした。

以来、揚子江岸無錫にて抑留、昭和二十一年三月、懐かしの日本へ上陸したのでした。

## 湘桂、貴州作戦

### 鉄道部隊の技術者として

福岡県 有松 忠 男

私の家は農業でしたが、父は鉄道員として日豊線行橋駅機関区勤務で、兄弟は姉、妹二人で、男は私一人という環境でした。生まれは大正十年九月十四日ですから、昭和十六年徴集として行橋の公会堂で検査があ